



甲虫ニュース

No. 160
December 2007

COLEOPTERISTS' NEWS

ピレネー山脈のフランス側における冬季オサムシ採集の結果

山崎 亮一

Results of the winter collection of the *Carabus* targeting on the
French Pyrénées

Ryoichi YAMAZAKI

はじめに

2003年4月より1年間、フランスとフランス語圏アフリカに仕事で滞在した折に、2003年末より翌年春にかけて、週末の休日にピレネー山脈のフランス側でオサムシ採集（オサ堀り）を行った。ピレネー山脈における邦人によるオサ堀りの記録は少ないと思われるので、ここにその結果を報告する。なお、筆者は今回の一連の調査に先立つ約9年前の1994年11月にも、一度だけ、ピレネー・オリエンタル (Pyrénées-Orientales) 地方のカルリット山 (Pic Carlit) の西側（残念ながら標高不詳）で1度だけオサ堀りを行った経験がある。この時の結果も未公表であるため、今回は、その結果もあわせて報じることにする。

なお、採集したオサムシの和名と、種別の記載順は井村（他）¹⁾ に準じた。学名を本文では FOREL *et al.*²⁾ を参照しなだら亜属名以下について表記した。

また、フランス・ピレネー地域は東から順にピレネー・オリエンタル、アリエージュ (Ariège)、オート・ガ

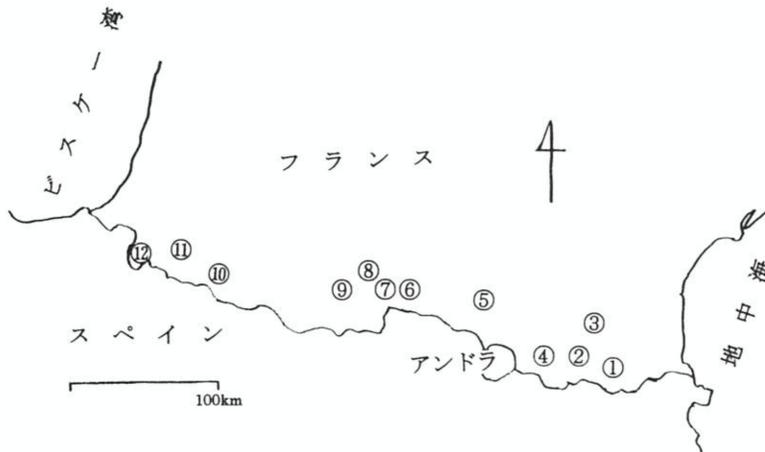


図1 採集地点

①オート・ヴァレスビルの森、②バレの森、③カルカネの森、④カルリット山、⑤ブラサクの森、⑥ジュゼ・ディゾーの森、⑦ガの森、⑧ソーヴェテルの森、⑨パロニエの森、⑩イッソーの森、⑪アルバイユの森、⑫アイラの森

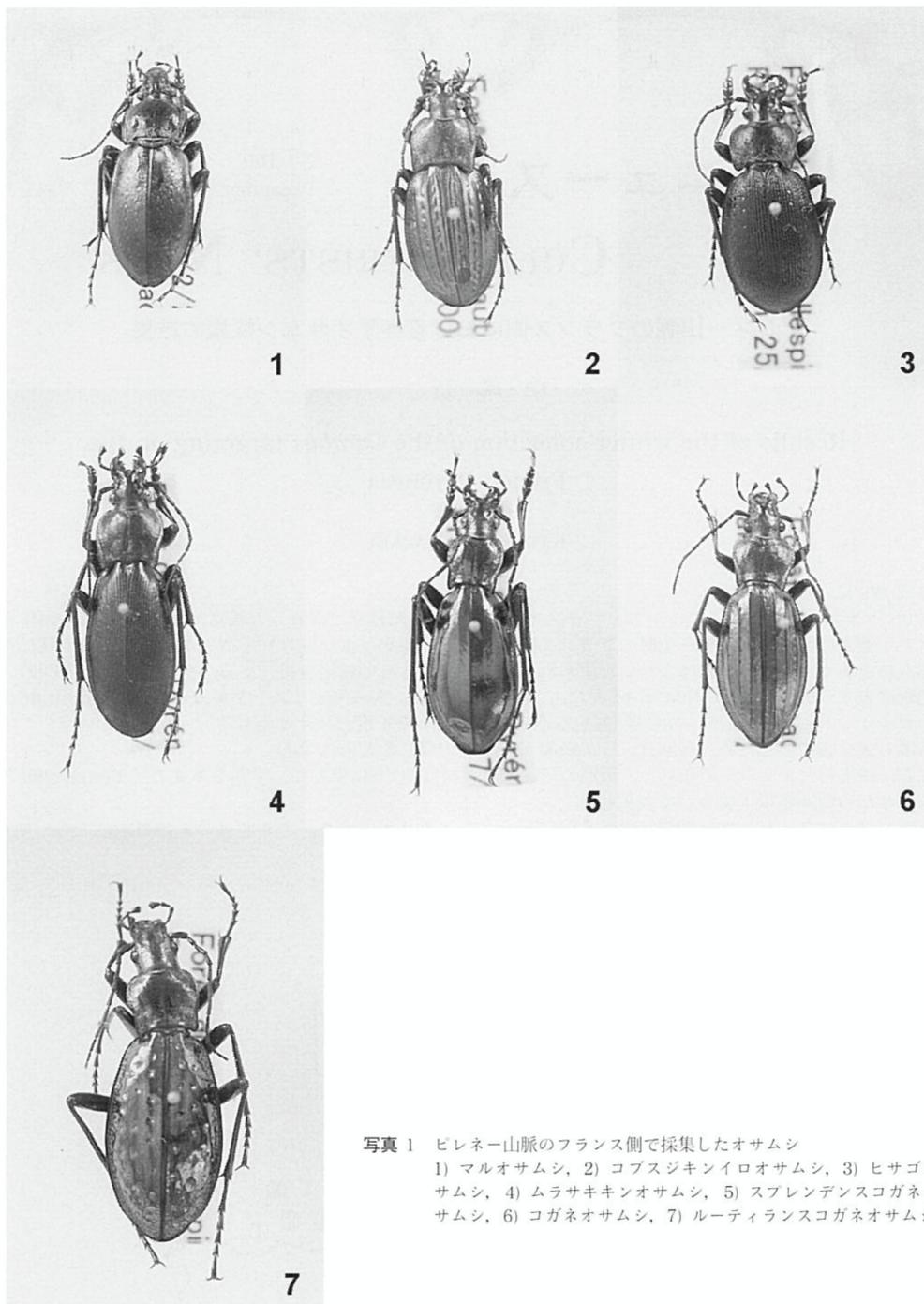


写真1 ビレネー山脈のフランス側で採集したオサムシ
 1) マルオサムシ, 2) コブスジキンイロオサムシ, 3) ヒサゴオサムシ,
 4) ムラサキキンオサムシ, 5) スプレンドゥスコガネオサムシ,
 6) コガネオサムシ, 7) ルーティランスコガネオサムシ

ロンヌ (Haute-Garonne), オート・ピレネー (Hautes-Pyrénées), ビレネー・アトランティック (Pyrénées-Atlantiques) に分かれるが、筆者による採集地点(図1)はこの4地方の全てにまたがった。以下の同一種内における採集地点は、東から西の順に配列してある。

採集の方法

現地でレンタカーを借り、借りた車を運転しながら採集するポイントを探し、ポイントが見つかった時点でオサ堀りを行った。採集するポイントとして最もよい成果をあげることができたのは倒木の根についている土で、朽木がそれに次いだ。

採集したオサムシと関連データ

- 1) マルオサムシ *Archicarabus nemoralis* MÜLLER, 1764.
2♂♂6♀♀, アリエージュ地方のブラサックの森 (Forêt de Brassac), 標高 950 m 地点, 10. II. 2004.
1♂, オート・ガロンヌ地方のガの森 (Forêt du Gat), 標高 700m 地点, 5. III. 2004.
- 2) コブスジキンイロオサムシ *Autocarabus cancellatus* ILLIGER, 1798.
3♂♂, オート・ガロンヌ地方のガの森, 標高 700 m 地点, 5. III. 2004.
- 3) ヒサゴオサムシ *Mesocarabus problematicus* HERBST, 1786.
11♂♂4♀♀, ビレネー・オリエンタル地方のオート・ヴァレスピルの森 (Forêt des Haut Vallespir), 標高 1,200 m 地点, 25. I. 2004.
1♀, ビレネー・オリエンタル地方のバレの森 (Fêret de Barrés), 標高 1,650 m 地点, 13. XII. 2003.
- 4) ムラサキキンオサムシ *Megodontus purpurascens* FABRICIUS, 1787.
2♂♂, ビレネー・オリエンタル地方のオート・ヴァレスピルの森, 標高 1,200 m 地点, 25. I. 2004.
4♂♂4♀♀, アリエージュ地方のブラサックの森, 標高 950 m 地点, 10. II. 2004.
1♂, ビレネー・アトランティック地方のイッソーの森 (Forêt d'Issaux), 標高 700 m 地点, 7. III. 2004.
1♂, ビレネー・アトランティック地方のアイラの森 (Forêt d'Hayra), 標高 600 m 地点, 14. III. 2004.
- 5) スブレンデスコガネオサムシ *Chrysocarabus splendens* OLIVIER, 1790.
1♂, アリエージュ地方のカルカネの森 (Forêt du Carcanet), 標高 1,100 m 地点, 17. I. 2004.
2♂♂7♀♀+1ex., ビレネー・オリエンタル地方のカルリット山西側, 13. XI. 1994.
2♂♂5♀♀+1ex., アリエージュ地方のブラサックの森, 標高 950 m 地点, 10. II. 2004.
1♀, オート・ガロンヌ地方のジュゼ・ディゾーの森 (Forêt de Juzet d'Izaut), 標高 950m 地点, 11. II. 2004.
4♂♂8♀♀, オート・ガロンヌ地方のガの森, 標高 700 m 地点, 5. III. 2004.
2♂♂1♀, オート・ガロンヌ地方のソーグテールの森 (Forêt de Sauveterre), 標高 900 m 地点, 5. III. 2004.
11♂♂10♀♀, オート・ビレネー地方のバロニエの森 (Forêt des Baronnies), 標高 650~700 m 地点, 6. III. 2004.
1♂2♀♀, ビレネー・アトランティック地方のアルバイユの森 (Forêt des Arbailles), 標高 700~800 m 地点, 13. III. 2004.
2♀♀, ビレネー・アトランティック地方のアイラの森, 標高 600 m 地点, 14. III. 2004.
- 6) コガネオサムシ *Chrysocarabus punctatoauratus* GERMAR, 1824.
5♂♂5♀♀+1ex., ビレネー・オリエンタル地方のカルリット山西側, 13. XI. 1994.
2♂♂3♀♀, アリエージュ地方のブラサックの森, 標高 950 m 地点, 10. II. 2004.
- 7) ルーティランスコガネオサムシ *Chrysocarabus rutilans* DEJEAN, 1826.
1♀, ビレネー・オリエンタル地方のカルリット山西側, 13. XI. 1994.
3♂♂5♀♀, ビレネー・オリエンタル地方のオート・ヴァレスピルの森, 標高 1,200 m 地点, 25. I. 2004.

引用文献

- 1) FOREL, J. & J. LEPLAT, 1995. *Les Carabes de France*. Sciences nat, Venette (France).
- 2) 井村有希・水沢清行, 1996. 『世界のオサムシ大図鑑』むし社.

(後記)

それぞれの種の形質、形態の地域変異、さらには生態に関する邦文によるまとまった記述は、これまで少ないようなので、今後、欧文の既往文献や筆者による採集体験をもとに、折を見ながらいくつかの種を対象にこ

これらの点を考察したい。

なお、FOREL *et al.*²⁾ が種別に作成した分布図によると、以下の11種のおサムシは、フランス・ピレネー地域の全域または一部の地域を生息地としているが、上記の調査を通じては採集されなかった。アカガネオサムシ (*Carabus granulatus*)、カザリオサムシ (*Morphocarabus monilis*)、ニセミヤママルオサムシ (*Archicarabus pseudomonticola*)、ピレネーキンイロオサムシ (*Autocarabus cristoforii*)、キンイロオサムシ (*Autocarabus auratus*)、ヒメダルマオサムシ (*Tomocarabus convexus*)、イベリアヒサゴオサムシ (*Mesocarabus lusitanicus*)、アカスジパネオサムシ (*Rhabdotocarabus melancholicus*)、イベリアオズオサムシ (*Iniopachys pyrenaicus*)、イベリアコガネオサムシ (*Chrysocarabus lineatus*)、シウムナビロオサムシ (*Macrothorax rugosus*)。

(酪農学園大学・農業経済学専攻)

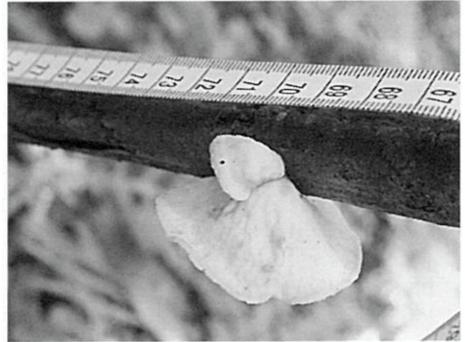
○滋賀県からのトモンチビオオキノコの分布記録

筆者はトモンチビオオキノコ *Tritoma asahinai* NAKANE, 1950 を滋賀県において採集したので報告する。滋賀県の昆虫類の記録(新保, 1991)には本種の記録が見当たらないことから、滋賀県における分布初記録と考えられる。

トモンチビオオキノコ *Tritoma asahinai* NAKANE, 1950, 6 exs., 滋賀県東近江市永源寺町紅葉尾(標高700m), 23.VI.2007, 採集は筆者。

全個体を落枝上にはえたキノコ裏面から採集した。このキノコについては写真を示したが、多孔菌科のオシロイタケ属(*Oligoporus*)の一種である可能性が高い。採集時に数個体を逃がしたため、翌週に同地を訪れ、追加個体を得ようとしたが、来集は認められなかった。その後、7月7日(採集日から14日後)に訪れた折には、このキノコは完全に溶けさっていた。

トモンチビオオキノコは NAKANE (1950) により



オシロイタケ (*Oligoporus* 属) の一種

東京都の高尾山の標本に基づいて記載された。本州と九州の分布記録があり(佐々治, 1985)、府県単位の記録では、Type locality(高尾山)の東京都以外では、神奈川県、奈良県(和佐又山)および福岡県からの記録が認められる。

なお、キノコについてご教示いただいた長崎泰則さん(大津市)に記してお礼申し上げます。

引用文献

NAKANE, T., 1950. New or little known Coleoptera from Japan and its adjacent regions II. —Erotylidae—. *Ent. Rev. Japan*, 5(1): 6-13.

日本甲虫学会, 2007. 和佐又山産甲虫類目録. 地域甲虫自然史, (3): 114.

佐々治寛之, 1985. オオキノコムシ科. 原色日本甲虫図鑑, III (黒澤良彦, 久松定成, 佐々治寛之編著): 217-229 (pls. 35-37). 保育社, 大阪.

新保友之, 1991. 滋賀県の昆虫相(II). 滋賀県自然誌, 1791-1845. 滋賀県自然保護財団.

(滋賀県蒲生郡安土町, 山本雅則)



トモンチビオオキノコ

○奥多摩のカミキリムシ5種の記録

奥多摩地域で得られたカミキリムシ5種について報告する。

1. ケブカマルクビカミキリ *Atimia okayamensis* HAYASHI (図1)

1♂, 東京都西多摩郡奥多摩町日原, 4. X. 2006, 源河採集 (材採取, 26. VI. 2007 羽化脱出); 1 ex., 同地, 21. X. 2006, 1 ex., 同地, 16. VIII. 2007, 土岐採集。

ネズミサンの枯枝及び樹幹上部の樹皮下より得られた。当地の個体はかつて HAYASHI (1972) によりヒメケブカマルクビカミキリ *Atimia fujimurai* として記載されている。東京都からは HAYASHI (1972), 源河 (2007) に続く3例目の記録である。

2. アラメハナカミキリ *Sachalinobia koltzei* (HEIDEN) (図2)

2♂3♀, 東京都西多摩郡奥多摩町小雲取山 (標高1,900 m 付近), 26. VI. 2007, 源河採集。

マツ科針葉樹のやや古い立ち枯れ上を徘徊していた個体が得られた。近隣では埼玉県大滝村 (現秩父市) 旧十文字小屋 (齊藤, 1978), 山梨県大菩薩 (酒井, 1968) などで記録があるが、東京都からは初記録と思われる。

3. クモマハナカミキリ *Evodinus borealis* (GYLLENHAL) (図3)

1♀, 山梨県北都留郡丹波山村石尾根縦走路 (標高1,700 m 付近), 22. VI. 2003, 土岐採集; 2♂1♀, 東京都西多摩郡奥多摩町ヨモギノ頭 (標高1,800 m 付近), 26. VI. 2007, 源河採集。

いずれもナナカマドの花より得られた。寺山 (1980) は埼玉県大滝村 (現秩父市) 雲取山山頂から記録したが、東京都からは初記録と思われる。

4. ブチヒゲハナカミキリ *Stictoleptura variicornis* (DALMAN)

1♀, 東京都西多摩郡奥多摩町小雲取山 (標高

1,900 m 付近), 28. VII. 2007, 土岐採集; 1♂, 同地, 28. VII. 2007, 足立採集。

針葉樹の立ち枯れに産卵中の個体および林縁を飛行中の個体が得られた。東京都からは郷・郷 (1970) の記録があり、それに続く2例目の記録であると思われる。

5. クロニセリンゴカミキリ *Eumecocera unicolor* (KANO)

1♀, 東京都西多摩郡奥多摩町石尾根縦走路 (標高1,700 m 付近), 22. VI. 2003, 土岐採集; 1♀, 東京都西多摩郡奥多摩町日原 (標高1,000 m 付近), 8. VII. 2007, 源河採集。

広葉樹の生葉のスウィーピングおよびシナノキ生葉で得られた。日本産カミキリ大図鑑 (日本鞘翅目学会編, 1984) では東京都にも分布するとされているが、具体的な記録は見出せなかったため、ここに報告する。

参考文献

源河正明, 2007. 奥多摩町日原地域のカミキリムシの記録 (2002~2006年), *EXIMIA*, 6: 1-20.

HAYASHI, M., 1972. Studies on Cerambycidae from Japan and its adjacent regions (Col.), XIX. *The Entomological Review of Japan*, 24: 25-41.

郷 達・郷 直樹, 1970. 奥多摩カミキリ目録追加(2), はばたき, (97): 8-9.

日本鞘翅目学会編, 1984. 日本産カミキリ大図鑑, 565 pp. 講談社.

齊藤良夫, 1978. 埼玉県の甲虫. 埼玉県動物誌編集委員会編, 埼玉県動物誌, 213-258. 埼玉県教育委員会, 埼玉.

酒井 香, 1968. 大菩薩でアラメハナカミキリを採る. 甲虫ニュース, (1): 2.

寺山 守, 1980. 埼玉県のクモマハナカミキリの記録. 月刊むし, (116): 38.

(東京農工大学大学院農学府, 源河正明)
(東京大学大学院農学生命科学研究科, 土岐和多瑠)
(東京農工大学農学部, 足立 康)

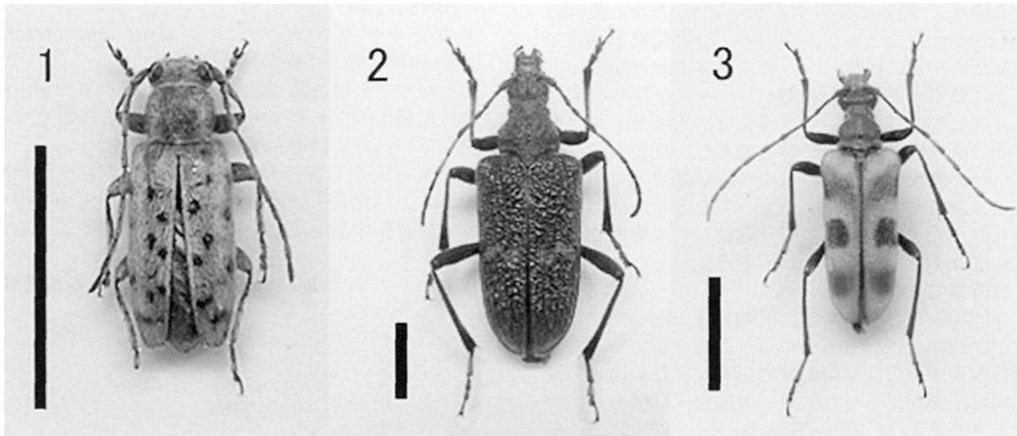


図1-3 奥多摩地域で得られたカミキリムシ。1. ケブカマルクビカミキリ; 2. アラメハナカミキリ; 3. クモマハナカミキリ。スケールバーは5mm。

○東京都でムネモンコナガクチキを採集

ムネモンコナガクチキ *Mycetoma sapporensis* NAKANE は、北海道札幌市で採集された個体に基づき、1991年に故中根猛彦博士によって記載された種である。筆者は、東京都西多摩郡奥多摩町日原金袋山にて本種を採集したので報告する。

5頭, 28. X. 2006; 11頭, 3. XI. 2006; 7頭, 5. XI. 2006. (採集者は全て筆者)



図1 ムネモンコナガクチキとヤニタケ

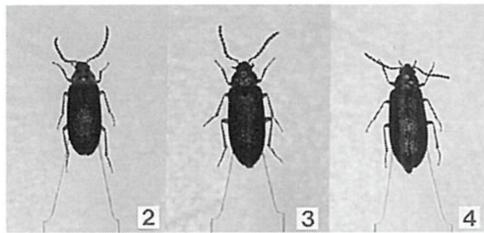


図2 ムネモンコナガクチキ(東京都産)
 図3 ムネモンコナガクチキ黒化型(東京都産)
 図4 チシマコナガクチキ(青森県産)

本種は、初冬に発生するヤニタケ *Ischnoderma resinosa* に集まるが、このキノコの発見が困難であるため非常に採集しづらい。ヤニタケは湿度の高い所に発生すると言われており、キノコ採りの際は枯れ沢などを探すらしい。成虫は、大抵ヤニタケの隙間や付け根の樹皮下に潜んでおり、採集するにはタバコの煙などによって追出すのが効果的である。成虫は数日おきに羽化するようであるし、他の甲虫類もヤニタケに集まるので、継続して採集に訪れるならば、キノコを割ったり樹皮を剥がしたりすることは得策ではない。

今回採集した個体には、前胸背板の四つの黒い斑紋が明確に分かれるものから、それらが広がって前胸背板全体から頭部にかけて黒くなったものまで連続的な差異が見られた。黒い個体は、同属のチシマコナガクチキ *M. affine* NIKITSUKY と非常によく似ている。筆者は、両種の触角、小顎ひげ、前胸背板、腹板など比較検討したが、差異は認められなかった。

なお今回、*Mycetoma* 属2種の比較のために秋田勝己、尾崎俊寛、佐藤隆志、豊嶋亮司各氏より貴重な標本をご提供いただいた。末筆ながら厚くお礼申し上げます。

引用文献

中根猛彦, 1991. 日本の雑甲虫覚え書7. 北九州の昆蟲, 38 (1): 7-9.

(東京都足立区, 木元達之助)

八重山諸島黒島のパパイアの枯れ葉にて得られたカミキリほか

2006年7月11日、採集以外の目的で八重山諸島黒島に行ったとき、偶然に体験したことを一生涯知見として報告しておく。

黒島島内には、ごく一部であろうが亜熱帯系のかなり発達した二次林(フクギほか)があり、その林縁部に栽培したものか逸出したものか不明であるが、樹高2m程度のパパイアが点々と生育していた。それらの幹の下部付近には、黄色に枯れかかっている葉があったので、まったく何気なくその枯れ葉をたたいてみたところ、小さなヤモリのほか、甲虫が何頭も落下してきた。これに驚いて周辺のパパイアの同様な枯れ葉をたたいたところ、次のカミキリムシ4種とヒゲナガゾウムシ1種が続々と得られた。わずか30分足らずのことである。

イシガキゴマフカミキリ(ヨナグニゴマフカミキリ) *Mesosa (Msosa) yonaguni* HAYASHI: 4頭

高桑正敏氏によれば亜種 *kashiwaii* KUSAMA et TAKAKUWA に含まれ、竹富島の個体にきわめて似るといふ。

アトモンチビカミキリ *Sybra (Sybra) oshimana* BREUNING: 15頭

タイワンチビカミキリ *Sybra (Sybra) pascoei* LAMEERE: 3頭

アヤモンチビカミキリ *Sybra (Sybra) ordinata* BATES: 1頭

アカアシヒゲナガゾウムシ *Araecerus tarsalis* SHARP: 8頭(平野幸彦氏同定)

パパイアの枯れ葉など見向きもしなかったが、枯れ枝に集まるフトカミキリ類がこれほど多数もぐりこんでいたのには驚かされた。

標本を同定してくださった小田原市の平野幸彦氏、および発表を勧められた神奈川県立生命の星・地球博物館の高桑正敏氏に篤く感謝の意を表すものである。

(神奈川県横浜市港南区, 新堀豊彦)

渋谷のアリヅカムシ

野村周平

アリヅカムシを始めた頃のことだったと思うが、小田原の久保田正雄先生から1個のアリヅカムシ標本をいただいた。1941年というから60年以上も前の標本だったが、産地が“Shibuya”と記されていた(図1A)。渋谷といえば、今や若者たちがたむろする東京屈指、いや日本屈指の繁華街である。「红灯の巷」なんていう古い表現もありますが、まそういう場所です。アリヅカムシの気配などはさらさら無い。

ところが久保田先生によれば、60年前はアリヅカムシが採れたという。後に2頭の追加標本をいただいた際に、採集された状況を伺ってみた。すると、志賀昆虫へ行った折に、道(青山通り)の反対側で朽ちた街路樹があった(図1B)。軽く崩してみると、数頭のアリヅカムシがわけなく採集できた、とのことだった。朽木性のアリヅカムシであることはこの状況から間違いないだろう。

それでそのアリヅカムシ標本の本体は何であったかということ、これが少なからず問題のあるものだった。*Batrisodes galloisi* JEANNEL という種で、JEANNEL (1958) により記載されたものである(図1C-F)。タイプはE. GALLOIS が1911年8月に採集した標本で、“Chûzenji, à Senjuga” とあるので、中禅寺湖千手が浜のことであろう。“Préfecture Tokyo” とあるが、無論栃木県が正しい。

採集データはさほど問題ではない。それでは何が問題なのかということ、亜属の分類である。記載時には本種は *Excavodes* 亜属に分類されていた。確かに本種は他の *Excavodes* 亜属の *B. dorsalis* JEANNEL やアラメトゲ *B. stipes* (SHARP) のように、雄の前頭部に二次性徴が現れる。しかし一方、ヨーロッパの名義タイ

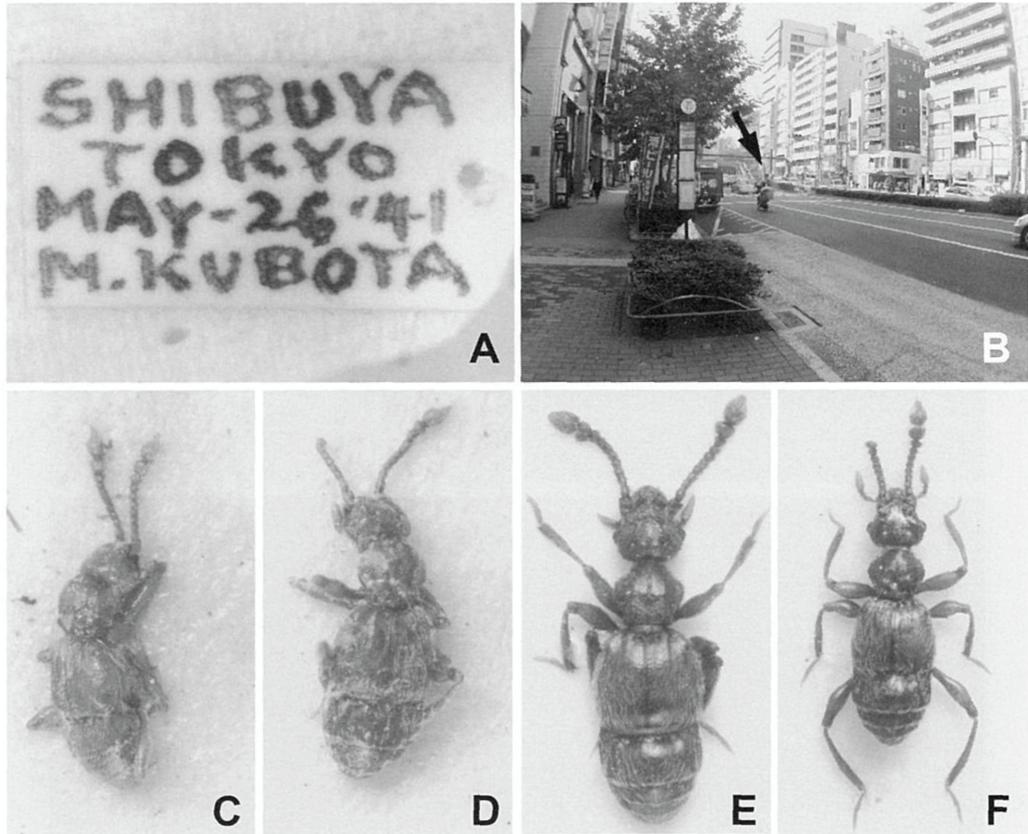


図1 *Batrisodes (Batrisodes) galloisi* JEANNEL ガロアオニアリヅカムシ。A. 渋谷産標本のラベル; B. 現在の渋谷(宮益坂上から渋谷駅方面; 左手バス停は渋谷2丁目, 青山通り向かいの左手奥に志賀昆虫の店=黒矢印); C. 渋谷産♂; D. 同♀; E. 北海道産♂; F. 町田市産♂。

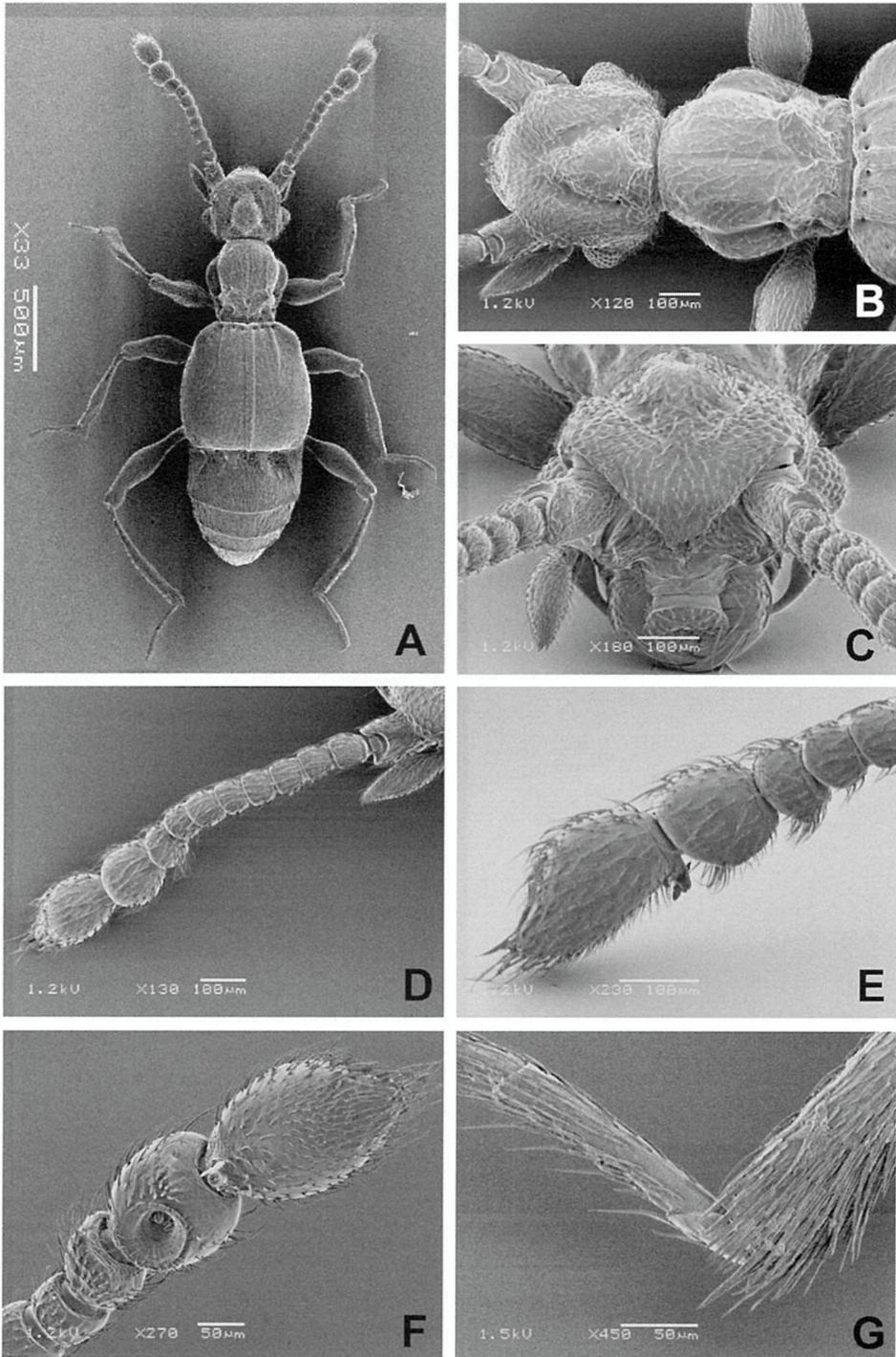


図2 *Batrisodes (Batrisodes) delaporti* AUBÉ プロレニウムネトゲアリヅカムシ。A. ♂全形；B. 頭胸部背面；C. 頭部前面；D. 左触角背面；E. 触角先端節側面；F. 同下面；G. 後脚けい節先端部。

プ亜属や日本、北米から知られる *Pubimodes* 亜属の種と同じように雄の触角第 10 節も膨大し、分泌腺をそなえるのである。

和名にも若干の問題があった。タカオトゲと同じ亜属なので、「ガロアトゲアリヅカムシ」とすると、現在のガロアフサヒゲアリヅカムシ *Batrisoplus galloisi* JEANNEL の旧名と同じになってしまうのである。ちなみにこの種は、保育社の甲虫図鑑でこのように呼称されたが、体表にさしたるトゲもなく、第一タカオトゲなどとはずいぶん離れた分類学的位置にあるので、「トゲアリヅカムシ」と呼ぶにはふさわしくなく、上記のように改称された (NOMURA, 2001)。渋谷の種のほうは野村 (2002) によって、「ガロアオニアリヅカムシ」と呼ぶことが提唱された。

このガロアオニの亜属の分類については、筆者が 2007 年 2~3 月、パリの自然史博を訪れた際に、*Batrisodes* 属の各亜属のタイプ種と比較検討した。その結果、属のタイプ種である *B. delaporti* AUBÉ (ヨーロッパ産) に近いとして、近似の *B. valgus* KURBATOV (国後島産) および *B. tornatilis* KURBATOV (ウズリー沿海州産) とともに名義タイプ亜属へと移した (NOMURA, 2007)。ただしこの論文で、文末の一覧表に多くの誤りがある。日本産各種の学名で、亜属名の略称を、*Excavodes* 亜属は (E.)、*Pubimodes* 亜属は (P.) とすべきところが、全部 (B.) となってしまう。この場を借りて訂正させていただきたい。

ここで登場した *Batrisodes* 属のタイプ種、*B. delaporti* についても簡単に記しておきたい (図 2)。この種はヨーロッパのアリヅカムシとしては珍しく、やや北方に産し、フランスではパリ郊外のブローニュの森 (タイプ産地) やフォンテーヌブローの森などにみられる (JEANNEL, 1950)。逆に南仏の地中海沿岸には少なく、イタリアでは珍品という (Fernando ANGELINI 博士私信)。野村は日本ヴォーグ社刊「昆虫の写真図鑑」を翻訳した際に、本種に「ブローニュメトゲアリヅカムシ」という和名を与えた (野村, 2000)。大型の好蟻性種で、朽木などに営巣したケアリ類の巣から採集される。今回比較に用いた個体はスロバキアのベテル・ハラバチュ博士との交換で得たスロバキア産の標本である (図 2A)。古い文献では *B. Delaportei* とつづられることが多い。

ブローニュの雄は前頭部が三角形に突出し、その先端両側に小さな一対の毛束をそなえる (図 2C)。触角第 10 節は球形に膨大し、下面に分泌器官の開き口がある (図 2F)。第 11 節下面には *Batrisodellus* 属にみられるようなカギ状突起がある (図 2E)。また、中脚けい節内面には中程に小棘があり、ケツメ (端部) もあるがあまり発達しない。後脚けい節先端の毛束はあまり長く発達しない (図 2G)。これが名義タイプ亜属の特徴であり、日本産のガロアもそうになっている。しかし同じ名義タイプ亜属に分類される *B. oculatus* には長い毛束があり、必ずしも徹底されていない。

ガロアオニアリヅカムシについては、タイプ標本以降、追加記録は一切ないので、現在の分布は本州 (タイプ産地のみ) ということになっている。以下に、渋谷を含めて、手元にある標本の記録を残しておく。

〈採集データ〉1♂ (図 1E)、三國峠 (上川—幌加内町)、トラック・トラップ (4~7 PM)、29. vi. 2002、堀繁久採集; 1♂、栃木県藤岡町渡良瀬遊水地、28. iii. 1999、大川秀雄採集; 1♂2♀ (図 1C, D)、東京渋谷、26. v. 1941、久保田正雄採集; 1♂5♀ (図 1F)、東京都町田市成瀬、15. vi. 1996、吉田進採集; 1♀、岐阜県平湯温泉、24. viii. 1987、野村周平採集。

〈分布〉北海道、本州。

謝 辞

本稿を作成するにあたり、パリ自然史博物館所蔵コレクションの閲覧を許された、同博物館の Thierry DEUVE 博士ならびに Taghavian AZADEH 女史に厚く感謝の意を表す。また、貴重なアリヅカムシ標本を恵与された以下の方々に厚く御礼申し上げる (順不同): Peter HLAVÁČ (スロバキア)、久保田正雄 (小田原市)、大川秀雄 (栃木県)、堀繁久 (札幌市)、吉田進 (町田市)。

引用文献

- JEANNEL, R., 1950. Pselaphidae. Faune de France, (53): 1-421.
 JEANNEL, R., 1958. Révision des Pselaphides du Japon. *Mém. Mus. Nat. Hist., Paris*, (A), 18: 1-138.
 NOMURA, S., 2001. Taxonomical review and a list of the pselaphine species (Staphylinidae, Pselaphinae) known from Japan. *Elytra, Tokyo*, 29: 141-161.
 NOMURA, S., 2007. Taxonomical notes on the Japanese species of the genus *Batrisodes* REITTER, with a description of a new species from Yonagunijima Island of the Ryukyus (Coleoptera: Staphylinidae: Pselaphinae). *Ent. Rev. Japan*, 62: 51-61.
 野村周平, 2000. アリヅカムシのなにか。ジョージ=C. マクガヴァン著、野村周平監修「昆虫の写真図鑑」, 259 pp., 日本ヴォーグ社, 東京, p. 127.
 野村周平, 2002. アリヅカムシ類。栃木県林務部自然環境課編「とちぎの土壤動物」, pp. 263-278.
 (国立科学博物館動物研究部)

○カデサホソキコメツキ石垣島の記録

カデサホソキコメツキ *Procoraerus kadesanus* ÔHIRA, 1969 は西表島から採集された複数の個体に基づいて新種記載された種である。これまで八重山諸島の西表島、小浜島、黒島、波照間島から分布が記録されている。最近、大平・楠井(2006)は慶良間諸島の屋嘉比島から、鈴木(2006)は与那国島から相次いで本種を記録した。しかしながら当然分布しているであろうと思われた石垣島からは、不思議なことに記録されていなかった。筆者は石垣島で本種を採集しているのでここに記録しておく。

1♀, 石垣島 名蔵浜, 2. V. 2002.

1♀, 石垣島 名蔵浜, 18. VI. 2005.



採集した兩個体は海浜のモンパの花から得た。本種の上翅黒斑は変異のあることが知られており、今回得られた兩個体は共に斑紋は未発達で、非常にうすいものであった。本種の形態等は平(2005)に詳しく紹介されている。

参考文献

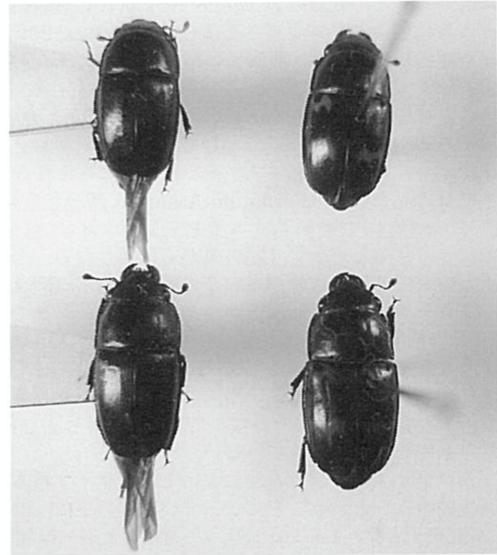
- ÔHIRA, H., 1969. The Elateridae of the Ryukyu Archipelago. VII. (Coleoptera). *Bull. Japan ent.*, 4(8): 27-32.
 大平仁夫, 2005. 琉球・八重山諸島産コメツキムシ類の分布記録(2). 甲虫ニュース, (151): 7-10.
 大平仁夫・楠井義久, 2006. 琉球列島小島嶼のコメツキムシ(3). 月刊むし(429): 34-39.
 鈴木 互, 2006. 与那国島におけるカデサホソキコメツキの記録. 甲虫ニュース, (154): 27.

(大阪市住吉区, 有本久之)

○ヨツボシケシキスイ黒化型を東京都で採集

ヨツボシケシキスイ *Librodor japonicus* MOTSCHULSKY の上翅赤紋が完全に消失した黒化型を、同一年に同一地点のクヌギ樹液で2例採集した。本種の黒化型について言及した文献を筆者は見いだすことはできず、希な例と思われるので報告する。

1♀, 東京都板橋区西台 1-3, 8. VI. 2003, 1♀, 同地, 27. VII. 2003, 筆者採集・保管。



(左側2個体が黒化型)

採集地点は斜面地に帯状に連なる雑木林中で、クヌギ、ケヤキが多く、面積は計1haほどであった。2003年12月、この林は環状8号線取付道路建設のため伐採され、永久に消滅してしまった。本種は孤立した小さな樹林地にも生息できる種のように、当地でもその個体数は多かった。板橋区内全域にも生息地は散在し、市街地化が早くから進んでいる区の南部地域でも生息地はまだ残されている。

図鑑類にはアカハラケシキスイなど同属他種の上翅赤紋の消失などの変異については述べられているが、ヨツボシケシキスイの変異については何も書かれていない。全くの印象的な判断であるが、筆者が所持する同地で2000年から2003年に採集された9個体を含む、板橋区内産本種計15個体にも赤紋の縮小などの変異は認められない。

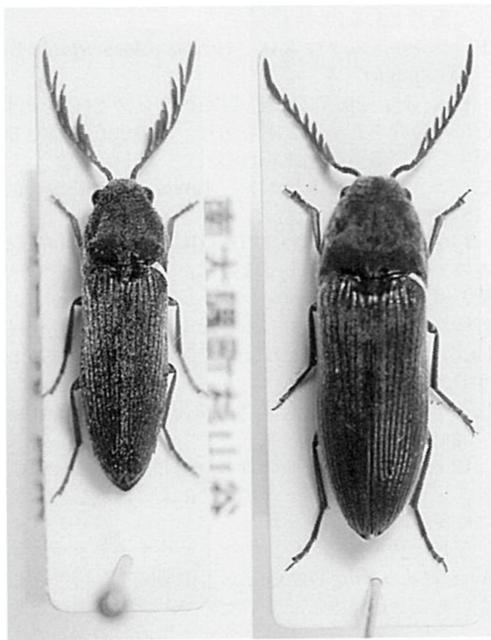
(東京都板橋区, 釣巻岳人)

○鹿児島県大隅半島におけるクシヒゲチャイロコメツキダマシの採集例

クシヒゲチャイロコメツキダマシ *Hodocerus malaisiensis* BONVOULOIR, 1870 は、伊豆諸島、黒島、屋久島、琉球、台湾、インドシナ、マレー諸島に生息することが知られている（久松，1985）。筆者は、これまで記録のなかった、九州南部で採集された本種の個体を検することができたので、ここに報告したい。

1♀ (17.0 mm), 鹿児島県肝属郡南大隅町杉山谷, 9. VII. 2005, 野田 亮採集.

1♂ (14.5 mm), 同地, 20-21. VII. 2007, 同氏採集.



1 2
写真 1: ♂; 2: ♀.

日本に生息するコメツキダマシの中では、最大級の部類で、他の大型種とは触角が雄では強く、雌では弱く櫛歯状となることにより容易に区別することができる。

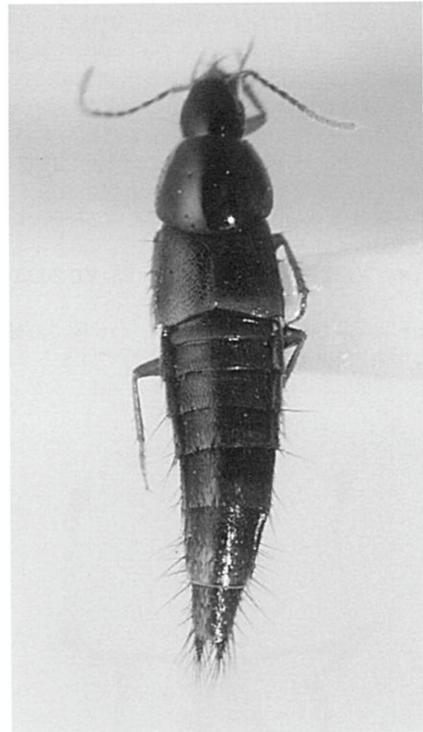
記録するにあたり、貴重な標本をご提供いただいた、野田亮氏に厚くお礼申し上げます。

引用文献

久松定成, 1985. コメツキダマシ科. 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編著, 原色日本甲虫図鑑 (III): 42-51 (pls. 8-9). 保育社, 大阪.
(東京都世田谷区, 鈴木 互)

○ *Atanygnathus juang* SMETANA を本州で採集

本種は台湾で採集された個体にもとづいて1995年に記載された種であるが、その後 Y. SHIBATA & T. WATANABE (2006) は日本の南西諸島にも分布していることを報告した。このたび筆者は横浜市で採集した標本を整理していたところ、本種が含まれていることが判明した。これは本州からの初記録となるので報告する。



3 exs. 横浜市緑区新治市民の森, 13. IV. 2001, 筆者採集

念のため確認していただいた柴田泰利氏によると、「この個体はオス交尾器などの特徴から本種に間違いないが、台湾や南西諸島のものに較べると上翅後縁の赤黄色帯が広く、その点では *A. terminalis* (ERICHSON) に似ている」という趣旨のコメントをいただいた。恐らく九州や四国にも分布していると考えられるが、それらがどのような特徴を示すのか興味あるところである。

種名を確認のうえコメントをいただいた柴田泰利氏にお礼申し上げます。

参考文献

SHIBATA, Y. & T. WATANABE, 2006. New record of *Atanygnathus juang* SMETANA (Coleoptera, Staphylinidae) from Ryukyu Islands, Southwest Japan. *Elytra*, Tokyo, 34(2): 326.

(藤沢市, 渡辺 崇)

○東京都における甲虫類2種の記録

筆者は東京昆虫目録(平成19年10月現在)において記録のない甲虫類2種を、東京都世田谷区内で採取しているので以下に記録する。

1. セマダラナガシンクイ *Lichenophanes carin-eipennis* LESNE

本種は主に西日本に分布し、関東地方での記録は少ない。都内でも観察されているが記録はないようである。

1 ex., 東京都世田谷区世田谷総合運動場, 5. VIII. 2006, 夜間, 立ち枯れたエゴノキの樹皮で確認。

2 exs., 東京都世田谷区世田谷総合運動場, 5. VIII. 2007, 1頭は集積された広葉樹の幹上で採取した。もう1頭は同じ木の直径2~3mmほどの丸い穴から出てくるところを採取した。この木には同様の穴が多数あり、本種の羽脱痕であると思われる。

2. ハスオビクチブトゾウムシ *Corymacronus costulatus* MOTSCHULSKY

1 ex., 東京都世田谷区砧公園, 25. VI. 2005 (写真)。

本種は森本ら(2006)によると、わが国では岐阜、兵庫、岡山県下で局所的に採取されているとされている。今回確認した砧公園内にはエノキ、ムクノキ、



写真 ハスオビクチブトゾウムシ

ヤマザクラ等の広葉樹の高木林があり、その林床の草本葉上で採取した。

参考文献

森本 桂・小島弘昭・宮川澄昭, 2006. *THE INSECTS OF JAPAN*, 3: 205-206, 278, 394.

東京都本土昆虫目録作成プロジェクト, 2007. 東京昆虫目録 (<http://homepage3.nifty.com/TKM/>).

(世田谷区, 山崎裕志)

○東京都世田谷区におけるタマムシ類の追加記録

筆者は本誌147号(2004)において、東京都世田谷区未記録のタマムシ8種を記録したが、その後、同区において記録のない以下の3種のタマムシを採取しているので追加記録する。なお、採取者はすべて筆者である。

1. シラケナガタマムシ *Agrilus pilosovittatus* E. SAUNDERS

1 ex., 砧, 20. V. 2006, 自宅ベランダで採取。付近には藤棚を有する公園もあり、そのような環境で発生しているものと思われる。

2. ミツボシナガタマムシ *Agrilus trinotatus* E. SAUNDERS

1 ex., 桜丘(すみれば自然庭園), 5. V. 2006, 園内のアカメガシワ葉上で採取した。庭園内には発生源と思われるアラカシ・シラカシの高木やそれらの落枝が見られる。なお、本種は東京昆虫目録(平成19年10月現在)によれば東京都からは未記録のようである。

3. サシゲチビタマムシ *Trachys robusta* E. SAUNDERS

12 exs., 成城(神明の森みつ池), 26. VII. 2007, スタジイの葉のスウィーピングにより採取した。葉には多数の食痕が見られた。

なお、前報(147号)では、マサキナガタマムシ *Agrilus euonymi* TOYAMA が世田谷区を基産地としていることを見落としていたので、世田谷区産としてここに追記する。本種はマサキ生垣の減少とともに都市部では確認しづらくなっており、世田谷区(1988)にも記録されていない。筆者は以下のように本種を採取しているので参考として記録する。

1 ex., 桜丘(すみれば自然庭園), 24. VI. 2006, 園内の低木葉上で採取。

末筆ながら、一部の種を同定していただいた関章弘氏にお礼申し上げる。

参考文献

秋山黄洋・大桃定洋, 2000. 世界のタマムシ大図鑑, p. 272. むし社。

世田谷区, 1988. 世田谷区自然観察シリーズII. せたがや動物ガイド, p. 162. 世田谷区。

東京都本土昆虫目録作成プロジェクト, 2007. 東京昆虫目録 (<http://homepage3.nifty.com/TKM/>).

山崎裕志, 2004. 東京都世田谷区におけるタマムシ類数種の記録. 甲虫ニュース, (147): 19-20.

(世田谷区, 山崎裕志)

○ハラアカトゲバコメツキダマシの雄について

ハラアカトゲバコメツキダマシ *Spinifornax miurai* NAKANE, 1987 は、鹿児島県屋久島の白谷で採集された2個体の雌標本に基づいて命名記載された種である。その後の記録はなく、雄は依然として未知であった。最近、筆者は、本種の雄個体を検することができたので、ここに写真とともに紹介したい。

1♂, 鹿児島県屋久町白谷, 17. VII. 2007, 西野久雄採集 (筆者保管)。

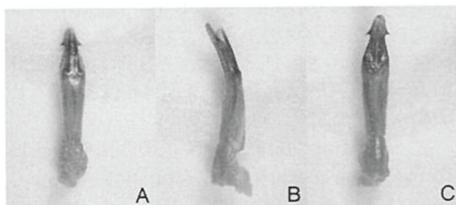
体長: 13.5 mm; 幅: 3.3 mm. 黒色。触角は赤褐色の1・2節を除き黒褐色。脛節, 跗節は赤褐色。腹部腹面は暗赤色。毛は褐色。触角はひも状で、短い。先端節は前胸後角にかろうじて届く。頭部前縁はやや平圧され、後方はやや膨隆する。前胸背板は強く膨隆し、表面には小さな点刻を密布する。上翅は表面に強い光沢があるが、角度によってはオパール色の光沢もある。翅端部はそれぞれ狭まり、鋭く尖る。爪は内側に切れ込みがあり、2歯となる。

原記載に用いられた雌個体には、前胸背板に中央部に一對の円い凹みが認められるが、今回調査できた雄個体には、そのような凹みは見られなかった。

日本には、本種に似た大型のコメツキダマシが何種もいるが、腹部が赤色である特徴により、容易に識別することができる。

引用文献

中根猛彦, 1987. 日本のコメツキダマシ類についての覚え



A-C: 雄交尾器. A, 腹面, B: 側面, C: 背面

書き. 月刊むし, (198): 7-11.

(東京都世田谷区, 鈴木 互)

○四国におけるウメヤルリミズギワゴミムシの記録

筆者らは、カミキリムシ科甲虫を採集する目的で、2006年7月26日に小田深山渓谷において燈火採集を試みた。その際に飛来したゴミムシ科甲虫を森田誠司氏にお送りしたところ、四国から記録がないと思われるウメヤルリミズギワゴミムシ (*Bembidion (Peryphus) umeyai* HABU) が含まれていたと連絡をいただいたので、ここに報告をする。

なお、標本はすべて、森田誠司氏が保管している。1♂1♀, Odamiyama, alt. ca. 1,000 m, Uchiko Town, Ehime Pref., 26. VII. 2006, T. KURIHARA leg.

森田(2001)によると、本種は生息環境が特定されておらず、ミズギワゴミムシの中でも非常に少ない種類のようなのである。本個体は、河原からわずか数十メートルの見晴らしの良い場所で、燈火採集を行った際に飛来した。

末筆ながら、本種の同定、関連文献の提供ならびに発表を進めて頂いた森田誠司氏に厚く御礼申し上げます。

引用文献

HABU, A., 1959. One new species of *Bembidion* from Hokkaido (Coleoptera, Carabidae). *Kontyû*, 27: 257-259.

森田誠司, 2001. ウメヤルリミズギワゴミムシについて. 穂積俊文博士記念論文集, 東海昆虫誌: 293-296.

(愛媛大学農学部, 栗原 隆, 山迫淳介)

訃報

東海地方のアマチュア甲虫界のリーダーとしてご活躍してこられた穂積俊文博士(前日本鞘翅学会名古屋支部長)が、去る平成19年6月21日にご逝去されました。享年81歳でした。

穂積先生は、主に地元である東海地方の甲虫相の解明に精力的に取り組まれてこられました。文献類に明るく、とくにカミキリムシでは都道府県別に文献記録を整理され、1984年に発行された講談社の「日本産カミキリムシ大図鑑」では、故・草間慶一先生とともに、ヒメハナカミキリ類を除いた日本産ほぼ全種について分布図の作成を担当されるなど、その活動は地方に留まるものではありませんでした。

鞘翅学会の前進である鞘翅目学会が設立されると、いち早く名古屋に支部を組織し、若手の発掘、育成にも力を注がれるなど、当学会や日本の甲虫界の発展に果たした功績は決して小さなものではありませんでした。心よりご冥福をお祈りいたします。甲虫ニュースでは、穂積先生を偲び、次号に追悼記事を掲載します。(長谷川道明)

◇2007年度採集例会報告◇

2007年度日本鞘翅学会採集例会は7月21日から22日にかけて、四国剣山において行われた。日本甲虫学会との合同開催は1998年以来10年間継続している。剣山で採集例会が開催されるのは2004年度に続いて2回目である。

参加者は日本鞘翅学会、日本甲虫学会両方合わせて40名であり、合同採集例会の参加者が40名に到達したのは久しぶりの盛況であった。

今回も現地幹事である徳島の吉田正隆さんに全ておまかせして、日本鞘翅学会と日本甲虫学会の合同調査研究会ということで入林許可を取っていただく等のお膳立てをしていただいた。

今年度は前半の気温が低かったせいであろうか、例年に比べて虫の発生が遅れ、2004年に採集できたムナミゾハナカミキリなどの7月下旬をピークとする種の採集には時期が早すぎたが、代わりにオオボカミキリや*Pidonia*類を採集でき、セダカコブヤズカミキリも相当数が採集されている。

今年のトピックスは7月21日の夜に行われたナイター採集が大当たりであったことである。

カミキリムシではハンノオホルカミキリ、ホソヒゲトゲムネカミキリが飛来した以外に、剣山初記録と思われるシロスジカミキリが、筆者、松本忠之氏、近藤文男氏で1頭ずつ採集したのを合せて全部で4頭飛来した。他の甲虫としてはムラサキスジアシゴミムシやガロアムネスジダンガラコメツキ等の中堅どころの甲虫がかなりの個体数で飛来した。1頭ではあるがシロジウロクホシテントウも得ている。ガロアムネスジダンガラコメツキに混じって、黒色で小型のシコムネスジダンガラコメツキと思われる個体が混入しているのに最近気づいたが、昨年の稲子湯の採集例会でゲットしたキムネスジコメツキとあわせて、採集例会でムネスジダンガラコメツキ属を3種ゲットしたことになる。

ナイター以外でも、トライクビチョッキリを初めとするゾウムシ類やミヤケムネナガコメツキをはじめとする関東では採集が難しいコメツキを何種も採集できたのも嬉しい収穫である。

水野弘造氏の手元に提供された鳥頭尾遼一氏の採集品の中にはシコクオオズナガゴミムシ、ツルギヤマナガゴミムシに加えて、ニホンムネスジダンガラコメツキが含まれていたとのことであり、コメツキ採集には実に面白い採集地であるといえる。

最後に紙面をお借りして、現地幹事をお引き受けいただき、楽しい採集の機会を提供していただいた吉田正隆、黒田祐次のご両名、及び今回もナイター設備をご提供いただいた高知の中山絃一氏と吉田正隆氏に対して心からのお礼を申しあげたい。

(横浜市青葉区、大木 裕)

◇日本鞘翅学会名古屋支部会大会のお知らせ◇

日本鞘翅学会名古屋支部会の第29回大会を、2月17日(日)に、下記のように開催いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

なお、本会は学会員以外の参加も大歓迎ですので、お知り合いの甲虫好きの方をぜひお誘いあわせの上、ご参加ください。

記

日時：平成20年2月17日(日)午後13:00～17:00

(会場は、10時から使用できますので、会合、談話などにご利用ください)

会場：三重県環境学習センター(三重県四日市市)

<http://www.eco.pref.mie.jp/forum/center/center1.htm>

テーマ：東海地方の甲虫の保全を考えよう

招待講演：西原昇吾氏(東大・院 農学生命科学研究科保全生態学研究室)

「水生甲虫の保全～採集圧の与える影響と保全の実践活動およびその効果について～」

招待講演のほか、東海地方各県からの甲虫保全についての報告を予定しています。

当日、名古屋支部会でも蘇虫会(タトウの中に眠っている虫、標本箱の隅に何となくおいてある虫の寄贈、交換会)を開催します。この機会に貴重な標本を活かすため、こうした標本をぜひお持ちください。

※大会終了後、懇親会を開きたいと思います。お酒を飲まれる方は、絶対に飲酒運転のないようお願いします。

※お車で来られない方は、近鉄四日市駅からの乗り合わせの手配をいたしますので、世話人(長谷川道明 hasegawa-michi@msi.biglobe.ne.jp)までご連絡ください。

◇甲虫ニュースに投稿される方へ◇

原稿をワープロで作成される場合、刷り上がり2頁を超える報文は1行49字、短報は1行23字にそろえ、FDやCDとプリントアウトした原稿を1部つけ下記宛にお送りください。写真等が複数ある場合は、余白などをうまくカットして組み合わせた図版を作成してください。付図がない場合には、原稿を電子メールの添付ファイル(一太郎ワード)でお送りくださってもかまいません。なお、その際は、迷惑メールと区別できるよう、件名の中に「お名前と甲虫ニュース投稿」を必ずお入れください。

原稿送付先：鈴木 互

〒156-0053 東京都世田谷区桜3-14-13

電子メール：elater@b08.itscom.net

◇日本鞘翅学会第20回大会報告◇

第20回記念となる今大会は、初めての開催地となる越前の福井大学で行われた。当初は佐々治寛之先生が大会委員長を務められる予定で話が持ち上がったものの、急遽、先生がご逝去なされたため、今大会は保科英人氏が大会委員長兼実行委員長という形で開催された。11月3日から2日間行われ、一般講演の口頭発表が9題、ポスター発表が8題、その他に分科会が5つ設けられ、参加者数は92名であった。地方での開催であったことを考慮すればたいへんな盛会であったといえよう。特別講演は琵琶湖博物館の中井克樹氏に「ブラックバスが昆虫を食う! ~バスは虫で生き延びる~」の演題で講演いただき、特別講演のあとに続いて開催されたシンポジウムでは「種多様性の保全と日本鞘翅学会が果たすべき役割」と題して、5人のスピーカーの話題提供があった。特別講演とシンポジウムを連動させたため、活発な議論ができたことは大きな収穫であろう。一般講演でも保全に関する最新の報告があったり、これまでメールのやりとりだけで行われていた自然保護委員会が、初めて顔つき合わせて議論する場が設けられたりと、保全に関する話題が目立ったのが今回の大きな特徴であった。数年前から保全に関連する発表がなされていたが、ここにきてその胎動は着実に大きくなり、新たな局面を迎えていると感じた2日間であった。少人数で準備を行わねばならぬ状況にもかかわらず、有意義な大会を運営いただいた保科氏と保科研究室の学生諸氏にお礼申し上げたい。



(庶務幹事、岸本年郎)

◇会計報告◇

1. 2006年度決算(2006年1月1日~12月31日)

収入	予算	決算	増減
前年度繰越金	2,000,000円	2,135,364円	135,364円
会費	4,200,000	4,464,000	264,000
広告費	60,000	60,000	0
出版物売上金	50,000	179,550	129,550
雑収入	0	272	272
合計	6,310,000	6,839,186	529,186

支出	予算	決算	増減
会誌印刷費 (Elytra)	2,200,000円	2,608,095円	408,095円
会誌印刷費 (甲虫ニュース)	1,000,000	1,138,410	138,410
会誌送料	720,000	735,191	15,191
通信費	150,000	18,000	-132,000
事務費	150,000	75,766	-74,234
大会助成費	100,000	100,000	0
予備費	50,000	40,564	-9,436
次年度繰越金	1,940,000	2,123,160	183,160
合計	6,310,000	6,839,186	529,186

2. 特別会計2006年度決算

収入	支出
前年度繰越金	3,222,007円
次年度繰越金	3,222,275
利息	268
合計	3,222,275

(会計担当、齊藤明子)

◇会員動静◇

◇学会の発行物・バックナンバー販売委託先◇

昆虫文献 六本脚
TEL/FAX: 03-5625-6484
E-mail: roppon-ashi@kawamo.co.jp
URL: <http://kawamo.co.jp/roppon-ashi/>

甲虫ニュース 第 160 号

発行日 2007 年 12 月 30 日
次号は 2008 年 3 月下旬発行予定
発行者 新里達也
編集者 鈴木 互 (編集長), 長谷川道明, 川島逸郎,
奥島雄一, 吉富博之
発行所 日本鞘翅学会
〒169-0073 東京都新宿区百人町 3-23-1
国立科学博物館昆虫第 2 研究室
電話 03-3364-2311
原稿送付先 (甲虫ニュース) 鈴木 互
〒156-0053 東京都世田谷区桜 3-14-13
電子メール: elater@b08.itscom.net
印刷所 (株)国際文献印刷社
年会費 2007 年度 7,000 円 (一般会員)
郵便振替口座番号 00180-3-401793
ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/jsc2/index.html>

昆虫学研究器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめて出来たステンレス製有頭昆虫針 00.0, 1, 2, 3, 4, 5, 6 号, 有頭ダブル針も出来ました。その他, 採集, 製作器具一切豊富に取り揃えております。

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 1 丁目 7-6
振替 00130-4-21129
電話 (03) 3409-6401 (ムシは一番)
FAX (03) 3409-6160
(カタログ贈呈) (株)志賀昆虫普及社